



自然をたいせつにし
誰もが住みよい
優しいまちづくりを

糸島市議会議長 有田 継雄

新年あけましておめでとうございます。

平成23年の年頭にあたり、糸島市議会を代表しまして謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

市民のみなさまにおかれましては、日ごろから本市発展のためにひとかたならぬご理解とご協力をいただいております。心から感謝申し上げます。

昨年は糸島市が誕生し、市誕生記念式典をはじめ、花火大会やドリーム・ベースボールなどさまざまなイベントが行われました。その際には、市民みんなで盛り上げていただき、10万人都市にふさわしい「魅力あるいとしま」のまちづくりが始まりました。

市議会としましては、本年3月定例会より議会のインターネット中継を予定しており、開かれた市議会を推進してまいります。市民のみなさまからの負託を受けた我々市議会議員にかかる責任の重大さを十分認識し、更に研鑽を積んでまいります。自然豊かな糸島をたいせつにし、誰もが住みよい優しいまちをつくるため全力を尽くし、また市民のみなさまのご期待に応えられるよう、新しい年を迎えて決意を新たにしますのでございます。

結びといたしまして、本年がみなさまにとりまして幸多き年となりますよう祈念しまして、新年のご挨拶といたします。



新しい研究施設の建設が進む
糸島リサーチパーク

新 春 特 集

糸島が変わる 日本を 変える 世界に飛び出す

いと しま い しん
糸 島 維 新

糸島には、日本そして
世界に羽ばたく
可能性が芽生えている

糸島市長 松本 嶺男



新年あけましておめでとうございます。

みなさまには、健やかで輝かしい新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

さて、昨年は糸島市の基礎づくりという意味で大変重要な一年でありました。

特に大きな事項としては、本市運営の根幹となる糸島市長期総合計画を策定したことや、『いとしま共創プラン～校区まちづくり推進事業』を実行に移し、地域内分権、市民協働の第一歩を踏み出したことがあげられます。

さらに、糸島リサーチパークでは福岡県によって水素エネルギー製品研究試験センターが開所され、半導体の実装研究や社会システム実証実験に関する2つの施設が着工されるなど、本市が化石燃料に依存した文明の転換や、わが国の半導体産業の振興を担う地域になることが示された一年でもありました。

現在のわが国は決して安定した状況とは言えませんが、その中にあって糸島市では日本中に、そして世界へ向けて羽ばたく可能性が芽生えつつあります。

今年もみんなで、この可能性を育てていきましょう。

先端産業の育成と

研究・開発拠点 糸島

糸島から世界をリードするテクノロジが生まれる

昨年4月に糸島リサーチパーク（東・富・多久）に、水素関連製品の研究・試験を行う『水素エネルギー製品研究試験センター』がオープンしました。

ここでは、水素ガスの中で使う「バルブ」や「センサー」など、企業が開発した水素関連製品の耐久性試験などを行い、その性能や信頼性を評価します。未来を支える水素関連の企業にとっては、心強い応援です。

平成21年3月には、南風台・美咲が丘地区に家庭用燃料電池（エネファーム）150台を集中設置する大規模な社会実証実験「福岡水素タウン」も始まりました。

水素エネルギーや燃料電池の研究開発で、世界をリードする九州大学。その移転を契機に、次世代のエネルギーとして大きな期待を集める水素プロジェクトが今、糸島市を中心に繰り広げられています。

水素エネルギーとは

●化石燃料から水素へ

世界のエネルギー需要は中国をはじめとするアジア諸国を中心に、急速に伸び続けています。

その一方で石油の生産は、2040年にはピークが到来し、減少するとの見通しが

あります。また、地球温暖化の問題も深刻化しており、世界中で低炭素社会への移行が望まれています。

石油をはじめとした化石燃料の大量消費は、二酸化炭素（CO₂）の排出量を増加させ、大気中のCO₂の増加が、気象変動にも深刻な影響を及ぼし始めています。

私たち人類は、石油などの化石燃料の利用によって文明を大きく進歩させ、産業を発展させてきました。

しかしこれからは、エネルギー問題・環境問題ともに解決しながら、将来にわたって持続可能な社会をめざしていく必要があります。

●水素でクリーンな社会

今こそ、化石燃料だけに依存しない新たな社会づくりが必要になっています。そのような中、次世代のエネルギーとして大きく期待されているのが水素です。

水素エネルギーは、利用するときにCO₂を発生させ

ん。また水素は、化石燃料だけでなく、太陽光や風力など再生可能エネルギーで発電した電気を使って水を電気分解することでつくり出すことができます。

つまり、再生可能なエネルギーから水素を製造することで、CO₂が発生しないクリーンな社会をつくることができます。

●世界中で熾烈な開発競争

水素と酸素を反応させて電気をつくり出す「燃料電池」を利用すれば、さらに高い効率でエネルギーが利用できます。その結果、貴重な化石燃料を有効に活用すること



水素エネルギー製品研究試験センターの高圧水素試験室内にある装置。水素製品に高圧を加える試験が行われる